

令和元年度特別企画展

首里城正殿跡 出土品展



2020年2月18日（火）▶5月10日（日）

沖縄県立埋蔵文化財センター

目 次

ごあいさつ ······	1
1. 首里城の発掘調査略史 ······	2
首里城内及び周辺の発掘調査地区 ······	3
2. 発掘された正殿跡 ······	4
3. 首里城正殿跡の出土品 ······	5
コラム 首里城正殿出土の兜の図上復元について ······	14
琉球王国・首里城関係年表 ······	15
引用・参考文献 ······	17



【凡例】



1. 本図録は、令和元年度特別企画展『首里城正殿跡出土品展』(開催期間：令和2年2月18日～5月10日)の展示を補完するものとして、編集・作成しました。
2. 企画及び原稿執筆は、金城亀信・金城貴子・玉城綾・荻堂匠美・大城妃左緒が行い、與那覇栄・亀島英莉が編集しました。
3. 文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権（発行）者の承諾を得ずとも、本図録を複製して利用できます。
ただし、利用にあたっては出典を明記してください。
4. 発掘調査報告書に記載されている資料名と本図録に記載されている資料名が一部異なるものが存在します。これは報告書刊行後、新たな研究成果によって詳細が判明したことによるものです。

ごあいさつ

沖縄県立埋蔵文化財センターでは開所した平成 12（2000）年以来、国指定重要文化財公開「首里城京の内跡出土品展」を毎年度開催し、多くの県民の方々に期間限定で公開してきました。

今年度も京の内跡出土品展を開催する事で計画を進めてまいりましたが、その最中、令和元（2019）年 10 月 31 日未明に首里城内で発生した火災によって正殿を含む建物が消失しました。正殿が焼け落ちていく姿は、県民をはじめ世界中の人々に衝撃を与え、同時に私たちは大切な財産を失いました。

しかしながら、復元前の発掘調査によって検出された遺構は現地に残されており、膨大な量の出土品も当センターで保管されています。

首里城は沖縄の歴史と文化の象徴であると同時に、琉球文化の粹を集めた県民の心のよりどころともなっていたことから、深い喪失感にある県民の多くが早期の首里城復元を望んでいます。

このような状況に鑑み、開催予定であった「首里城京の内跡出土品展」を急遽変更し、特別企画展「首里城正殿跡出土品展」として開催することとしました。

首里城正殿跡の発掘調査は、昭和 60（1985）年から 2 カ年間にわたって沖縄県教育委員会が実施しました。

当センターの収蔵庫には、現在、県内各地から出土した遺物が収納コンテナで 27,454 箱分保管されていますが、その約 3 割は首里城関係の遺物が占めています。首里城正殿跡から出土した遺物に限って見ても、その量は 1,404 箱分で、首里城関係の遺物（8,637 箱分）の約 16% となり、他の地区の出土量を圧倒していることが分かります。

首里城正殿跡からは、琉球王国が 15 世紀を中心とした大交易時代に海外交易で入手した中国・東南アジア、朝鮮・本土産の陶磁器などの他に、平成 4（1992）年 11 月に首里城正殿が復元・公開された際、正殿の装飾や細部の復元にあたり基礎資料となったものも出土しています。

今回、正殿跡の発掘調査で得られた遺物に焦点をあてた特別企画展を開催することにより、観覧者の皆様に貴重な文化財が残されていることを知っていただき、琉球王国時代の息吹を感じてもらう機会となれば幸いです。

令和 2（2020）年 2 月 18 日

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長 城田久嗣

1. 首里城の発掘調査略史

首里城で初めて実施された発掘調査は、昭和 11（1936）年 12 月から翌年の 1 月までの期間で伊東忠太・鎌倉芳太郎の両氏による城内の 4箇所〔①西ノアザナ東南側下文字瓦層、②京ノ内西北側（西）、③京ノ内西北側下（東）、④正殿前〕の調査です。その後、大正 14（1925）年に国宝建造物沖縄神社拝殿（正殿）として指定を受けていた正殿を含む建造物群は、昭和 20（1945）年のアジア・太平洋戦争末期に起きた沖縄戦で焼失し、城壁の大半が破壊されました。戦後、昭和 25（1950）年に琉球大学が創設され、昭和 57（1982）年までの 32 年間キャンパスとして利用されます。

首里城跡の復元整備は、沖縄が本土復帰した昭和 47（1972）年より沖縄県教育委員会が戦災文化財等復元整備事業（その後、首里城城郭等復元整備事業に改称）として歓会門及び周辺城壁の整備から始まり、最後は平成 13（2001）年度に実施された右掖門北側城郭の復元整備で完了します。これによって首里城外郭と外郭城門を含む 1,070 m が完成します。この復元整備事業の中で戦後初めて、城内の歓会門・久慶門内郭地区の発掘調査が昭和 59（1984）年度から始まります。

首里城内郭の本格的な発掘調査は、沖縄県教育委員会が昭和 60（1985）年度から 2 カ年間にわたって、県単独事業で実施した首里城正殿跡の位置及び遺構確認調査です。

首里城の復元は県民の悲願であったことなども踏まえ、昭和 61（1986）年度に首里城内郭の約 4 ha を沖縄県の本土復帰を記念して国営公園区域「都市公園整備事業（国営沖縄記念公園首里城地区）」として復元整備をおこなうことが閣議決定されます。

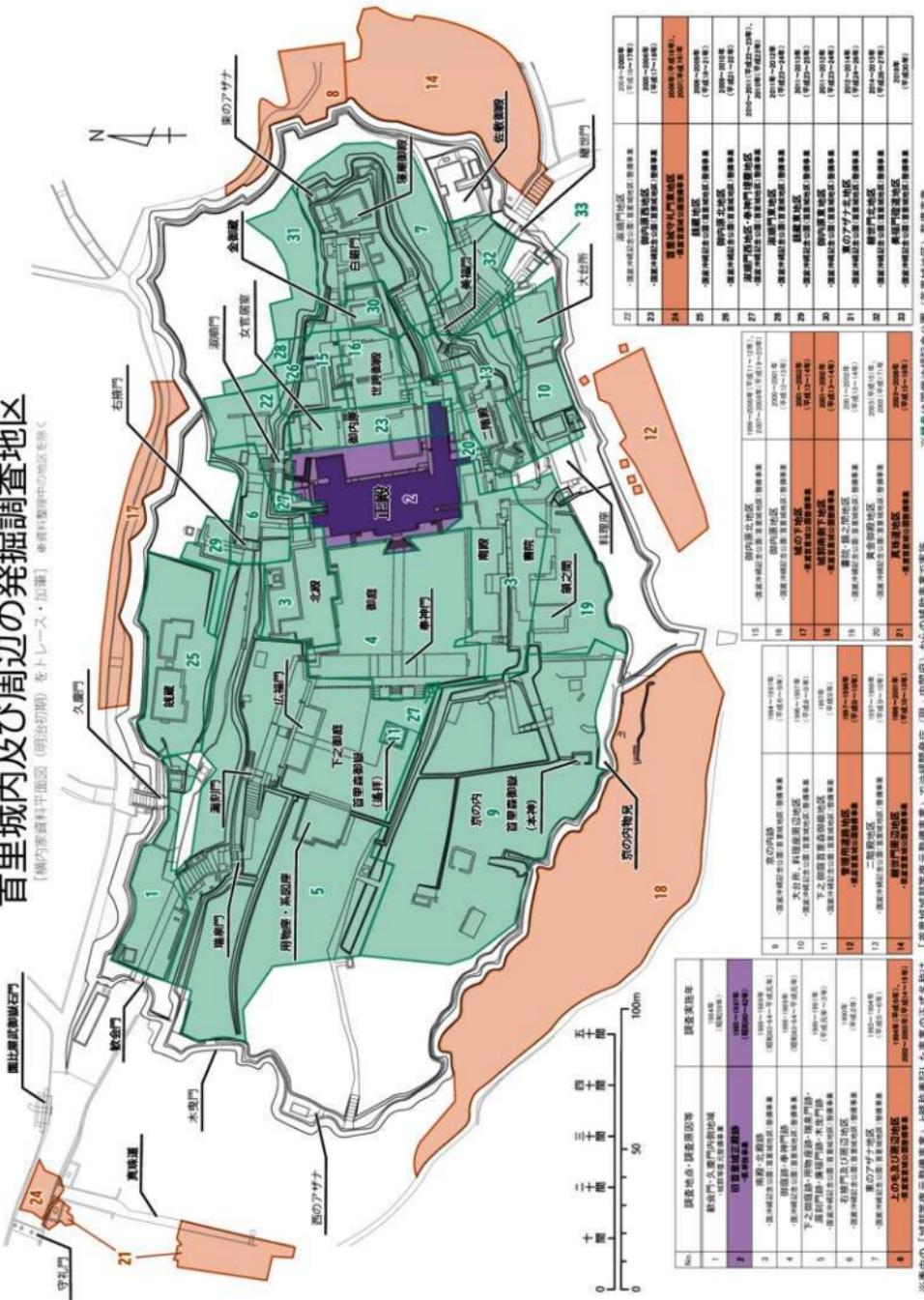
内郭の復元整備に伴う遺構確認調査は、内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所から沖縄県教育委員会が委託を受けて昭和 63（1988）年の南殿跡・北殿跡地区の発掘調査から始まり、平成 30（2018）年度の美福門砕道地区の発掘調査で終了します。なお、首里城外郭外側の約 18ha については、県営首里城公園整備事業として平成 3（1991）年度から現在まで、復元整備に伴う発掘調査を沖縄県土木建築部からの分任事業で継続的に実施しています。



正殿基壇跡の検出状況 ※ⒶからⒺ方向への拡張が確認された

首里城内及び周辺の発掘調査地区

横内家資料平面図(明治初期)をトレイス・加筆】歩道の整理中の地区を静く



2988

2. 発掘された正殿跡

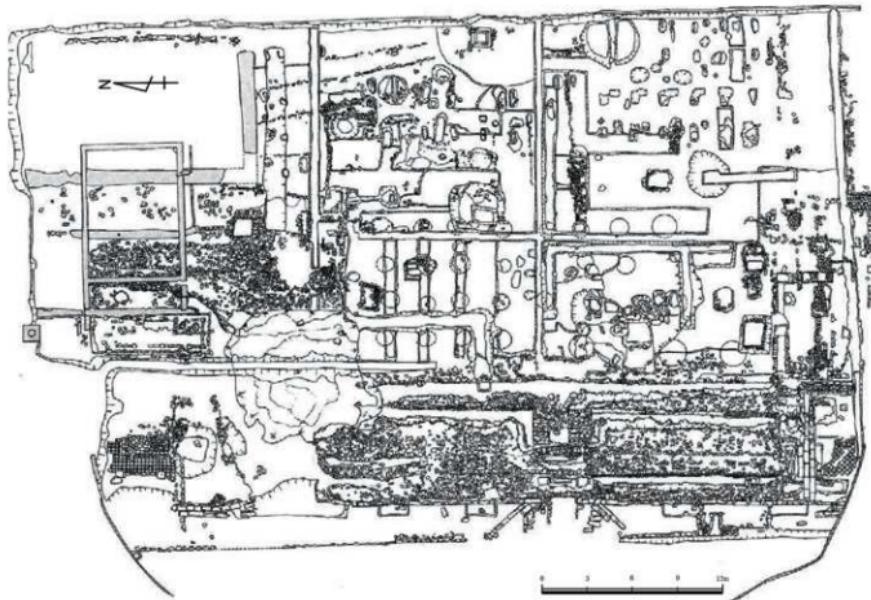
アジア・太平洋戦争の沖縄戦で多くの建造物群が焼失・破壊された首里城跡では、昭和45（1970）年、当時の琉球政府文化財保護委員会が首里城跡及び周辺文化財の復元整備計画を策定したことを契機に、沖縄が本土復帰した昭和47（1972）年より戦災文化財復元整備事業として、城壁や城門の復元整備が始まります。さらには、首里城の跡地に戦後創設された琉球大学の移転に伴い、その跡地利用として首里城一帯の公園化が有力となったことで、これまでの城壁や城門に加えて、正殿を含む城郭内側区域の復元整備を望む気運が高まります。

そのような状況を受けて、沖縄県では昭和59（1984）年度に『首里城公園基本計画』を策定し、首里城と一体となる周辺文化財も含めた歴史的な風致を構成する区域の約18haを都市計画公園の範囲とし、復元整備の方針を示しました。

その翌年、沖縄県教育委員会では正殿の復元に必要な基礎資料を得ることを目的として、昭和60（1985）年度から2カ年間にわたって正殿跡の遺構確認調査を実施しました。

延べ400人の県民が参加した発掘調査の結果、正殿建物の土台となる基壇跡や土留めの石列、方形石組遺構（生活ゴミ廃棄場）のほか、近代に構築された廁（トイレ）跡などが確認されました。中でも基壇跡の発見は、調査目的であった正殿の位置を正確に把握できる重要な成果となりました。あわせて、正殿は建て替えの時代を経ながら徐々に西側へと拡張していく様相も明らかになりました。

この正殿基壇の保存状況は、昭和16～8（1931～1933）年実施の正殿の修理工事時に作成された「國宝建造物沖縄神社拝殿図」と、戦前の正殿修理を行った文部省文部技師の阪谷良之進製図の「旧首里城図」との整合性が確認されたことなどから、正殿建物の復元が可能となりました。



遺構平面図

3. 首里城正殿跡の出土品

昭和60（1985）年度から2カ年間にわたって沖縄県教育委員会が実施した正殿跡の発掘調査では、様々な遺構以外にも膨大な量の遺物が出土しました。

出土品の種類としては、中国産陶磁器（青磁・白磁・青花・褐釉陶器・無釉陶器など）、タイ産陶磁器・土器、ベトナム産陶磁器、朝鮮産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器（施釉陶器・無釉陶器・陶質土器・瓦質土器）、カムィヤキ（鹿児島県徳之島産）、土器（グスク土器・宮古式土器など）、瓦（高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦）、壇、錢貨（中国銭・琉球銭・本土銭・近代日本銭・米国銭など）、煙管（無釉陶器製・施釉陶器製・金属製などの吸口と雁首）、玉類（勾玉・ガラス玉・小玉）、円盤状製品、金属製品（梵鐘・銅釘・銅鋸・飾り金具などの調度品や建築部材に付属する金具類、兜・小札・鎖帷子・鎧・切羽などの武具・武器類、香炉・瓶などの銅器類、鉄釘・鉄製の龍の髭など）、石造物（高欄、龍柱、礎石、礎盤など）、石製品（硯・文鎮・石臼・碁石・駒・玉器・石筆・石球など）、骨製品（歯ブラシ・箋など）、土製品（ミニチュア製品など）、ガラス製品（近代のインクボトルや薬瓶など）などがあります。

その他にも、食料となった貝類（チョウセンサザエ、ヤコウガイなど）や脊椎動物（魚類：ミナミクロダイ、ハマフエフキなど。動物：ニワトリ、ジュゴン、ヤギ、ウシ、ブタなど）の骨も出土しており、いかに正殿跡から多種多様の出土品があったかを窺い知ることができます。

なお、平成4（1992）年11月に復元・公開された正殿の装飾や細部の復元に関しては、龍頭棟飾りの鉄製の龍の髭をはじめ、軒先丸瓦、役瓦、欄干の羽目板や親柱、銅製装飾金具、壇、礎石など、発掘調査によって得られた出土品が基礎資料となりました。

これらの収納用コンテナで1,404箱を数える大量の正殿跡の出土品は、埋蔵文化財センターの収蔵庫で適切に保管されています。



首里城正殿跡の発掘調査の様子（西側より）

中国産陶磁器



中国産青磁 碗・皿



中国産白磁 左:八角杯、右:小碗(「大明成化年製」銘入り)



中国産白磁 皿



中国産青花 碗・皿



中国産青花 碗



中国産青花 左右:瓶、中央:水注

中国産、東南アジア産陶磁器



中国産青花 左:梅瓶、右:大型壺



中国産 左:色絵皿、中央:色絵碗、右:三彩水注



中国産 左:黒釉碗、右:瑠璃釉碗



タイ産 土器・陶磁器



ベトナム産 左上:青磁碗、右上:青花碗、
左下:青花水注、右下:鉄絵水注

朝鲜产、本土产陶磁器



朝鲜产青磁 右下以外：碗・皿 右下：瓶



本土产陶器 碗（肥前产）



本土产磁器 右下以外：碗・皿 右下：瓶（肥前产）



本土产陶器 壶（薩摩产）

カムイヤキ、沖縄産陶器



カムイヤキ 壺（鹿児島県徳之島産）



初期沖縄産無釉陶器 有文角瓶

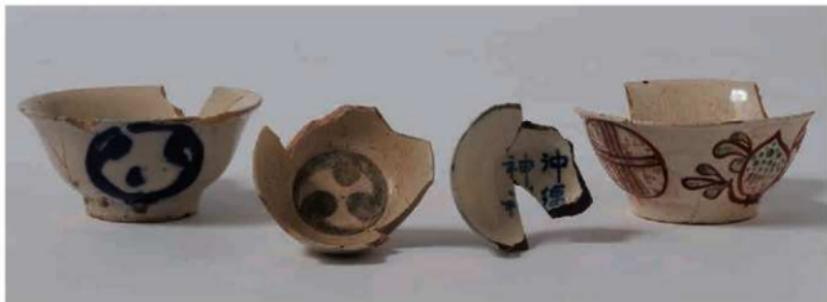


初期沖縄産無釉陶器 鉢・壺（右上：貝目痕のある鉢）



沖縄産無釉陶器 大壺（四爪の龍文貼付け）

沖縄産陶器、琉球銭



沖縄産施釉陶器 碗・小碗（左から2番目：琉球王国の紋章、左から3番目：「沖縄神社」銘入り）



沖縄産施釉陶器 左：酒注、中央上：瓶、中央下：急須の蓋、右2点：灯明具



陶質土器 鍋・鍋蓋



琉球銭 上段：「世高通寶」（1461年初鋤）
下段：「大世通寶」（1454年初鋤）

金属製品



梵鐘（相国寺（1454～1460年頃建立）の「天上人間」銘入り）右下：拓本



左・中央：切羽、右：刀の锷



金属製品 左上：香炉、左下：耳搔き、中央：印鑑、
右：有文花瓶の颈部か締め金具



拡大した印鑑 右下：印影



調度品・建築関係



金属製品 飾り金具



石造物

左上: 磁石 (八角柱の跡あり)

右下: 磁盤 (向拝柱の跡、裏面に「一番」刻名入り)



金属製品 左上: 大龍柱の接続用鉈、下段: 正殿大棟の龍頭棟飾の龍鬚

石造物 上段中央・右、中段: 龍柱破片

建築関係



高麗系平・軒平瓦 (上段左:「癸酉年高麗瓦匠造」銘入り平瓦)



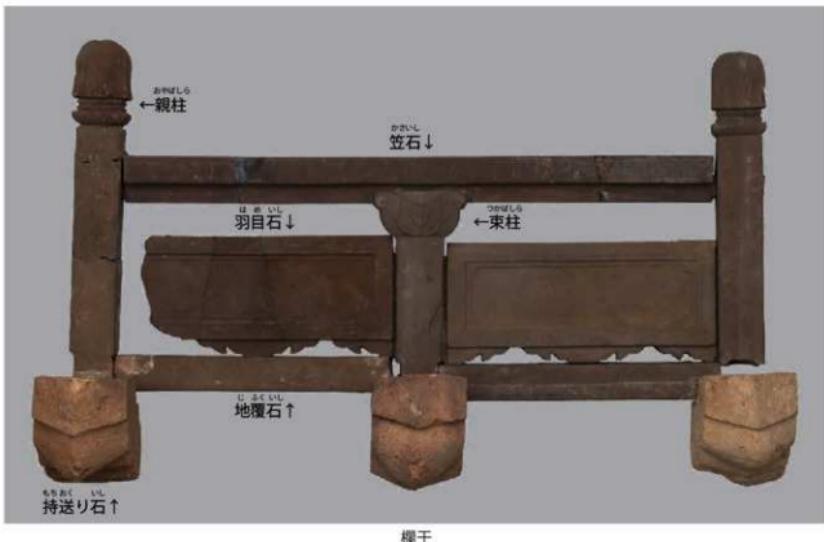
明朝系役瓦 上・中段・下段左:雲形
下段中央2点:草花形。下段右:龍頭の鶴冠か



上段:明朝系軒丸瓦
下段:大和系軒丸瓦



右下以外:明朝系軒平瓦
右下:大和系軒平瓦



コラム 首里城正殿出土の兜の図上復元について

首里城京の内倉庫跡から兜鉢の矧板や立物などの破片が出土しました。これにより1450年前後で使用された兜の復元（図1）ができました。その後、首里城正殿跡からも京の内兜の復元図と同様の兜鉢に小札が取り付けられたタイプ（写真1）も出土しています。その他に兜鉢に鎖帷子が取り付けられたタイプ（写真2）があり、このタイプは県内の遺跡から初めて確認されています。このように正殿跡からは二種類の兜が出土しています。そこで正殿跡から出土した写真2の兜鉢に取り付けられた鎖帷子（以下、鎖帷子タイプ）を図上で復元をしました（図2）。なお、兜鉢正面にある立物（三線形台と鎖帷子）は京の内倉庫跡から出土した立物を使用しました。復元に際しては、幾つかの問題がありました。一つ目は鎖帷子タイプに吹返があったのかどうか、二つ目が鎖帷子が真下に垂れ下がった状態では兜が被りにくく鎖帷子を広げないと兜が被れないという不便さが考えられました。この問題を解決するヒントは、国指定重要文化財（芸能）の組踊に現れる兜を布頭巾で表現した姿でした。鎖帷子の内側と外側を布や薄皮で包み込んで鎖帷子を隠すものが、鎖帷子タイプの兜本来の形であったものとして理解をしました。

結論として、正殿跡出土の兜で鎖帷子タイプのものは本来、布や薄皮で覆われていたものとして考えて図上で復元を試みました。鎖帷子タイプに吹返を取り付けるとすれば漆で鎖帷子の両端を固めながら徐々に折り曲げて吹返を造ることもできると考えましたが、正殿跡から出土した兜（鎖帷子タイプ）は潰れや変形などで吹返の存在は確認できませんでした。なお、図2の復元図は、図2Aが鎖帷子の内側に無地黄地の布を描きました。図2Bは内側以外に外側の鎖帷子を全て布などで描くと、鎖帷子の取り付状態や構造が判らなくなるので、鎖帷子の端にのみ図柄（琉球王国の紋章「左御紋（左三つ巴）」に、長寿の象徴とされる「菊」と吉祥文の「唐草文」を組み合わせました。）のある布を描くことで布張りの一部を表現し、図柄入りの布の範囲を縁取って復元図としました。なお、復元図は金城監修のもとで大城友理華さんが手掛けました。

〈金城竜信〉



写真1 正殿跡出土の兜鉢矧板と小札。



図1 京の内跡出土の復元された兜及び立物

（『首里城跡—京の内跡発掘調査報告書（II）』—2009年3月より複写）



写真2 正殿跡出土の兜鉢に装着された鎖帷子

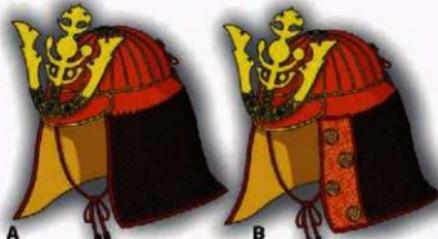


図2 正殿跡出土の兜（写真2）より復元。Aは鎖帷子の内側にのみ布張り。BはAに外側（鎖帷子の構造）の一部に布張り。

琉球王国・首里城関係年表①

時代区分	西暦	日本元号	中国元号	王統	事項	日本・世界	
南北朝・平安時代	607年	推古15	大業3	隋の煬帝、朱寔を流求に遣む(隋書)。	小野妹子を隋に派遣。法隆寺建立。		
	618年	26	武德1		隋滅亡し、唐興る(~907年)。		
	753年	天宝5	唐開元17	唐僧鑑真、阿闍梨波義島に渡航する(唐大和上東征伝)。	高麗王朝興る(918~1392年)。		
	918年	延慶18					
奈良・平安時代後期	960年	天祐4	建中1		朝鮮國麗(太祖)、宋を建国(~1127年)。		
	1192年	建久3	紹熙3		鎌倉幕府成立(1192~1333年)。		
鎌倉時代	1200年	文治1	景定1	英祖王即位。	蒙古、國号を元とする(1271~1368年)。		
	1271年	永文8	至元8	12			
	1273年	10	14	「癸酉年高麗瓦匠造」銘入りの高麗瓦製作(1153年~1393年説あり)。			
	1314年	正和3	延祐1	玉城1	玉城王即位、この頃から三山対立。		
室町時代・戦国時代	1333年	元弘3	至元1	玉城20		鎌倉幕府滅亡。	
	1338年	延祐5	至元4	西成2		室町幕府開創(1338年~1573年)。	
	1350年	正平5	至正10	察度1	察度王即位(浦添按司から王となり首里へ)。	タイ、アユタヤ朝成立(1350~1767年)。	
	1368年	23	洪武1	19		明興る(1368~1644年)、明の海禁政策。	
	1372年	文中1	5	23	明の太祖、繩轡を遣わし招撫、中山王察度、明へ進貢。		
	1392年	明徳3	25	43	中山王察度、高世層理を建造、遊覧。中國閥三十六姓素琅と伝わる。	李氏朝鮮成立(1392~1910年)。	
グスク時代	1404年	応永11	永楽2	武昭9	明皇帝の御使便ちて来琉、シャム(タイ王国)船遣来し交易。	明との貿易開始。	
	1406年	13	4	尚思19	尚巴志、中山王麻布を滅ぼす。		
	1416年	23	14	尚巴志11	尚巴志、北山王摩安知を滅ぼす。		
	1427年	34	宣徳2	尚巴志6	龍潭を廢し安国山を築く、安国山樹華木之記碑建立。		
	1428年	正長1	3	7	建國門(中山門)を創建。		
	1429年	永享1	4	8	中山王尚巴志、山南王池魯魯を滅ぼし三山を統一。		
第一尚氏王朝時代	1430年	2	5	9	この頃、首里城美福門(1422~1430年)が創建。中山王、明に三山統一を告げた語牒記。明の使者を琉球に遣わし、中山王に尚性を贈る。		
	1453年	享徳2	景泰4	尚金福4	王位繼承争い「志魯・布里の乱」起る。首里城焼失。		
	1454年	3	5	尚泰久1	琉球錢貨、「大徳通寶」が初めて铸造。尚泰久即位の1454年~56年の間に板敷石・星雲の首里城本殿を再建。		
	1458年	長祿2	天順1	5	護佐仁、阿麻利和利の乱。「万国津留の火」を首里城正殿にかける。		
	1459年	3	3	尚佐仁	佐佐木貞成(京の内倉庫貯藏)を失火で消失する『明實錄』。		
	1461年	寶正2	5	尚徳	琉球錢貨、「欽高通寶」が初めて铸造。		
	1469年	文明1	成化5	尚徳9	首里城で反対が起り、第一尚氏王滅びる。		
第二尚氏王朝時代	1470年	2	6	尚円1	金丸、王子に就き尚円1号し、第二尚氏王統始まる。琉球錢貨、「金圓通寶」が初めて铸造。		
	1477年	9	13	尚宣威1	尚宣威王位に就くが、尚真に位を譲る。		
				尚真(1477~1526年)、歓会門、久慶門、白銀門建立。			
	1494年	明応3	弘治7	18	元寛寺建立(1494年竣工)。		
	1500年	9	13	24	重山、オヤケアカチの乱。		
第二尚氏王朝時代・前朝時代	1501年	文亀1	14	25	王家の陵墓、玉陵を築く。この頃(1506~1521年)、北殿が創建。		
	1502年	2	15	26	円覚寺前に圓覺池を造り、奔財天堂を建立し、朝鮮王から贈られた方冊経を納める。		
	1506年	永正3	正徳1	30	久米島、具志川按司を征討。正徳年間に首里城北殿が創建。		
	1508年	5	3	32	首里城正殿に石造欄干造當(中國の様式)、北殿創建、一对の大龍柱(中國慶雲石・舞龍石)を設置。		
	1519年	16	14	43	龍比屋御殿石柱・界碑の石門前建。		
	1522年	大永2	嘉靖1	46	真珠道起点の北東側に皇王頌徳碑、西側に真珠塗碑を建立。この頃(1527~1555年)、龍橋、首里門(のちの守礼門)を創建。		
	1528年	享禄1	7	尚清2	守賀門(のちの守礼門)建立。		
	1544年	天文13	23	18	首里城東南隅の城壁工事始める。		
	1546年	15	25	20	首里城東南隅の城壁工事完成し、城壁が二重となる。羅世門を築き、添御門に之北に碑文・同南の碑文を建立。		
	1573年	天正1	万曆1	尚水1	尚水王即位。	室町幕府滅亡。	
江戸時代・近世	1579年	7	7	7	首里門に「守礼之邦」の額額を掲げる。		
	1603年	慶長8	万曆15	尚真1			
	1609年	14	37	21	薩摩軍(兵3000人)攻没し、尚寧王薩摩へ逃行(~1611年帰国)。	徳川家康、江戸幕府を開く。	
	1616年	元和2	44	28	薩摩より朝鮮陶工一六、一官、三百人來し、陶法を伝授(一六は堀田・浦田で作陶)。この頃、首里城南殿(1612~1627年)創建。	幕府、島津家久に琉球を賜う。	
	1628年	寛永5	崇禎1	尚貞8	首里城南殿創建。		
	1639年	16	12	19	地震があり、城壁剥離し、修復工事をねこなす。		
	1644年	正保1	順治1	尚賢1	各所に達見番(烽火の刻)を設置。	明王朝滅亡、清が興る。	
	1660年	万治3	順治17	尚質13	首里城、火災で壊し上、正殿その他の全焼する。		
	1667年	寛文7	康熙6	20	義保為公(蘇巨昌)、首里城大龍柱を作成。	満州王朝興る。	
	1670年	10	9	尚貞2	首里城正殿再建工事により葺き替め。		
	1681年	天和1	20	13	中山門が瓦葺に改修される。		
	1682年	2	21	14	平山典通、首里城正殿の五影彌(龍頭彌形)おおよび御冠の王、唐衣裳用の堀田王製作。三窓垣を抱む丸包巻の胸窓に括合。		
	1704年	宝永1	康熙43	12	36	平田典通、百瀬部(首里城正殿)の補修のため、彌形と龍爪を作製。	
	1709年	6	48	尚貞11	首里城正殿・北殿・南殿焼失。1715年までに再建。		
	1712年	正徳2	51	尚益3	首里城再建が本格化し、1715年に完了する。		
	1729年	享保14	雍正7	尚敦17	首里城正殿重慶され、「御差」の位置を中央に移設。		
	1736年	元文1	乾隆1	24	首里城北門朽門に之によじて設置。		
	1739年	4	4	27	首里城漏刻門前に日時計を設置し、看守役人を置く。		
	1753年	宝曆3	乾隆18	尚穆2	首里城夜廻殿・世添御殿創建される。		

琉球王国・首里城関係年表②

時代区分	西暦	日本元号	中国元号	王統	事項	日本・世界
江戸時代	1754年	宝曆4	乾隆19	尚穆3	中国の制に倣い、首里城奉神門を改修。	
	1760年	10	25	9	大地震があり、首里城城壁57ヶ所が損壊。	
	1768年	明和5	33	17	地震の被害にあつた首里城正殿を重修。	
	1771年	8	36	20	明和の大津波(宮古・八重山で遭難者11,861人)。	
	1773年	安永2	38	22	首里城正殿改修。	
	1806年	文化3	嘉慶11	尚融3	首里城正殿改修。	
	1811年	8	16	6	首里城正殿重修。	イギリス、ジャワ占領(～1816年)。
	1846年	弘化3	道光26	尚育12	首里城正殿重修。	
	1851年	嘉永4	咸豐1	尚泰4	異国人(英國人等)が潛在につき、城の防備を固めるため城壁の積み直しに石垣を築いて居る。	太平天国の乱(～1864年)。
	1853年	6	3	6	米海軍提督ペリー、サスケナハ号以下三隻で来航し首里城訪問。	ロシア使節ブチャーチン長崎来航。
明治時代	1868年	明治1	同治7	21	琉球設置。政府、太陽暦の使用、24時間制の採用を命ぜる。	王政復古、明治改元。
	1872年	5	11	25	尚泰王、首里城御渡し渡し、熊本鍋台分遣隊首里城駐留。沖縄県誕生。	
	1879年	12	5	32	尚泰王、首里城御渡し渡し、熊本鍋台分遣隊首里城駐留。沖縄県誕生。	
	1894年	27	光緒20	明治27	清国貿易に関する船舶の黒瀬港への出入り及び貨物積卸しを許可。	日清戦争始まる。
	1897年	30	23	30	沖縄师范学校、首里城から当歳に移転。	
	1904年	37	30	37	沖縄师范学校全廃し、首里城を校舎として使用。	日露戦争始まる。
	1908年	41	34	41	首里城中門、老朽のため52円余で売却撤去。	
	1909年	42	宣統1	42	首里城、首里城に払い下げられる。	
	1912年	明治45	民国1	明治45	首里城内に第一小学校ができる。広福門、奉神門撤去。	中華民国成立。
	1914年	3	3	大正1	大正1 竣立第二中学校、官民城の校舎より嘉手納に移転。	宣統帝退位し、清朝滅亡。
大正時代	1923年	12	12	12	首里市会、首里城正殿の解体決議。首里城伊東忠太・鍾倉芳太郎県、官民城の調査研究後に文部省に保存要請。	第一次世界大戦始まる(～1918年)。
	1924年	13	13	13	13 首里城内に沖縄神社創建し、首里城正殿を拝殿とする。	モンゴル人民共和国成立。
	1925年	14	14	14	14 首里城正殿、国宝に指定。国勢調査(人口557,993人)。	
	1928年	昭和3	17	昭和3	国庫補助により首里城正殿の解体修理工事着手。	
	1933年	8	22	18	首里城正殿解体修理工事竣工。首里城の飲食会館、瑞泉門、白銀門・守礼門、國宝に指定。	日本、国際連盟より脱退。
	1934年	9	23	19	首里城北門の修理始まる(～1936年完結)。	
	1936年	11	25	21	首里城内に郷土博物館開館。守礼門修理着工。伊東忠太・鍾倉芳太郎県、官民城の調査研究後に文部省に保存要請。	関東大震災。
	1937年	12	26	22	12 守礼門修理着工(守礼門の「昭和12年」銘入り鬼瓦が製作)。	盧溝橋事件(日中戦争勃発)。
	1938年	13	27	23	13 首里城南門(郷土博物館別館)修繕工事開始。	
	1939年	14	28	24	14 首里城南殿解体工事竣工。弁ヶ嶽石門、国宝指定。	第二次世界大戦始まる(～1945年)。
昭和時代	1941年	16	30	26	16 首里城地下に第32軍司令部壕が構築される。	
	1944年	19	33	29	19 首里城地下に第32軍司令部壕が構築される。	
	1945年	20	34	30	20 首里城正殿を含む建物類や石積み等、沖縄戦で焼失・崩壊。	広島・長崎に原爆投下。ボツダム宣言受諾。
	1946年	21	35	31	21 GHQ・日本と南西諸島を行政分離宣言。米軍政府、戦前の市町村長を原則に市町村長任命。	サンフランシスコ対日講和条約、日米安全保障条約調印。
	1951年	26	40	36	26 首里城跡に琉球大学開学。	
	1957年	32	46	32	32 國比屋武御殿石門を復元する。	
	1958年	33	47	33	33 守礼門を復元する。	東京タワー完工。閨門トンネル開通。
	1967年	42	56	42	42 首里城南門を含む戦災文化財の復元整備計画立案。	
	1972年	47	61	47	47 沖縄本土復帰(沖縄県設置)。首里城会館へ復元整備着手(～2001年度までに外郭石積みと各門が完成)。首里城跡が国指定史跡となる。	
	1982年	57	71	57	57 首里城跡より琉球大学西原町へ移転。	
戦後	1984年	59	73	59	59 沖縄県が首里城公園基本計画・策定。	
	1985年	60	74	60	60 首里城跡の発掘調査着手(～1986年度まで実施)。	
	1986年	61	75	61	61 首里城内(鉄道)を国際洋洋記念公園首里城地区」とし、沖縄復帰記念事業の一環で復元整備をおこなうことで閣議決定。	
	1988年	63	77	63	63 北殿・南殿・御庭地区の発掘調査が開始。	
	1989年	平成1	78	平成1	80 首里城正殿及び南殿・番所、北殿、奉神門復元工事に着手。	
	1992年	4	81	4	81 首里城正殿、北殿、南殿は少復元整備完了し一般公開。	
	1997年	9	86	9	9 首里城下之御庭の首里森御殿後元復工。	
	1999年	11	88	11	11 首里城二階殿復元竣工(平成10年度より工事着手)。	
	2000年	12	89	12	12 首里城二階殿、蔵之間殿元建工(平成15年度・外構整備、平成16年度・建工工事着手)。2010年7月23日付けで首里城書院・鏡之間庭園が国の名勝指定。2011年: 首里城順応門の整備、2014年: 首里城黄金御殿・寄調・近習詔所・奥書院の復元整備。2016年: 首里城奥書院庭園の整備。首里城城門(西)エリカの整備。	
	2003年	15	92	15	15 首里城跡の内復元竣工(平成13年度より工事着手)。	
平成時代	2018年	30	107	30	30 首里城城門外部の朱塗金瓦取り直し終了(2016年度～3年間)	
	2019年	平成31 令和1	108	平成31 令和1	1/22: 首里城正殿裏の「御殿(原エリカ)世詩館・女官房室・湯屋」。東のアザミアリ(金蔵殿・寝殿跡)の復元と面整備(約1ha)完了。10/31(未明): 正殿、北殿、南殿・番所、書院・鏡之間、黄金御殿、二階御殿・奥書院が火災により消失。	

【引用・参考文献】

- 沖縄開発沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所 1994 「国営沖縄記念公園首里城地区建設の記録【平成の復元】」
- 沖縄県教育委員会 1983 「重新校正 中山世鑑」
- 沖縄県教育委員会 1986 「旧首里城正殿跡位置確認調査報告書」
- 沖縄県教育委員会 1988 「首里城 欽会門・久慶門内側地域の復元整備事業にかかる遺構調査」
- 沖縄県教育委員会 1992 「首里城跡一首里城正殿跡の遺構調査」
- 沖縄県教育委員会 1998 「首里城跡一京の内跡発掘調査報告書(Ⅰ)ー」
- 沖縄県教育委員会 1998 「首里城跡 御庭跡・奉神門跡の遺構調査報告書」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2009 「首里城跡一京の内跡発掘調査報告書(Ⅱ)ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2013 「首里城跡一淑順門西地区・奉神門埋蔵地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2005 「首里城跡一書院・鎖之間地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2005 「首里城跡一二階殿地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2006 「首里城跡一淑順門地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2006 「真珠道路一首里城跡真珠道地区発掘調査報告書(Ⅰ)ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2007 「首里城跡一御内原西地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2007 「首里城跡一黄金御殿地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2009 「首里城跡・真珠道路一首里城跡守礼門東側地区・真珠道路起点及び周辺地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2010 「首里城跡一御内原北地区発掘調査報告書(Ⅰ)ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2016 「首里城跡一銭蔵東地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2016 「首里城跡一正殿地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2017 「首里城跡一御内原東地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2018 「首里城跡一繼世門北地区発掘調査報告書ー」
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2019 「発掘調査速報展 2019」
- 沖縄大百科事典刊行事務局 1983 「沖縄大百科事典」別巻 沖縄タイムス社
- 沖縄タイムス社 2019 「報道写真集 首里城」
- 一般財團法人 沖縄美ら島財団 2019 「首里城が楽しく学べる 首里城物語」首里城公園管理部
- 鎌倉芳太郎 1975 「セレベス 沖縄発掘古陶窯」国書刊行会
- 新星出版株式会社 2019 「オキナワグラフ」12月号
- 当真嗣一・上原 静 1987 「首里城正殿跡の発掘調査」「紀要」第4号 沖縄県教育庁文化課
- 琉球新報社 2019 「墮れ！首里城 報道写真と記事でたどる歴史」
- 沖縄タイムス「首里城正殿外部塗り直しを終了／3年間実施」29頁 2018年12月7日
- 沖縄タイムス「首里城 女王の居室復元／「御内原エリア」など公開へ」27頁 2019年1月22日
- 沖縄タイムス「世界遺産の遺構損傷か／首里城正殿火災／がれき入り込む」「鎖之間庭園の被害も調査」1頁 2019年11月6日
- 「沖縄の歴史」「琉球王国とは」2007 (財) 海洋博覧会記念公園管理財團 首里城公園管理センターホームページ
- 琉球新報「首里城の朱／鮮やかに／朱塗り直し3年」26頁 2018年12月8日
- 琉球新報「首里城大奥、復元完了／物見台も」29頁 2019年1月22日
- 琉球新報「首里城7棟焼失／貴重文化財も被害か」1頁 2019年11月1日
- 琉球新報「首里城焼失／電気系統から出火か／県警火元、正殿北東と断定」「遺構 大きな損傷なし」1頁 2019年11月6日

令和元年度 特別企画展「首里城正殿跡出土品展」

発行日 令和2(2020)年2月18日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒 903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL 098-835-8751 FAX 098-835-8754

【休所日】毎週月曜日、国民の祝日、2月25日(火)、5月7日(木)(但し、こどもの日は開所)

【開所時間】9:00～17:00(入所は16:30まで)

【入場・観覧料】無料

文化講座

日時 2020年2月29日(土)

13:30～15:30(13:00開場)

場所 当センター 研修室

参加費・予約不要 先着100名

当時の
発掘担当者が
語る!

演題『琉球文化の象徴、首里城正殿

-首里城正殿跡の発掘調査-』

講師 上原 静 氏(沖縄国際大学 総合文化学部教授)

ギャラリートーク

日時 2020年3月14日(土)・4月18日(土)

5月2日(土) 各回14:00～14:30

場所 当センター 企画展示室

参加費・予約不要 先着各20名

講師 当センター 調査班専門員

